

高等小學科
第一二年用

日本歷史

下

142
96

K110,2
51
2

K120.2

51

2

高等小學校
第一二年用
日本歴史 下卷

三〇

北條時政

紀元一千八百年代

源氏三代
頼朝
實朝
尼將軍

時政ハ源頼朝ノ妻政子(尼將軍)ノ父ナリ頼朝薨シテ其子朝家、實朝相踵テ殺サレ時政獨リ權ヲ專ニシ子孫世々執權職トナリ幼主ヲ擁立シテ天下ノ政令ヲ行ヘリ

三二

北條義時

紀元一千八百年代

承久ノ亂
後鳥羽上皇
北條義時
子泰時

義時ハ時政ノ子ナリ鎌倉ノ執權職トナリテ權威ヲ專ニセリ後鳥羽上皇北條氏ヲ滅サントシテ兵ヲ召シ給ヒシカバ義時子泰時ヲシテ大軍ヲ率井テ京都ニ上ラシメ多クノ公卿ヲ刑シ三上皇ヲ遠國ニ遷シ奉レリ之ヲ承久ノ

亂ト云フ是ヨリ北條氏府ヲ京都ニ置キ益悖逆ヲ恣ニセ

〔三二〕 北條時宗

紀元一千九百年代

時宗執權職タリシ時元主忽必烈支那全國ヲ征服シ我邦
ヲモ脅サント欲シ先ツ無禮ナル書ヲ贈リテ交通ヲ求ム
時宗之ヲ却ケ西國ノ海防ヲ嚴ニセシム龜山天皇深ク之
ヲ憂ヒ給ヒ身ヲ以テ國難ニ代ランユトナ伊勢神宮ニ祈
ラセ給ヘリ己ニシテ賊軍西海道ニ寇ス我兵力戰シテ之
ヲ攘ヘリ其後使者復來ル時宗之ヲ鎌倉ニ斬ル元主大ニ
怒リ遂ニ十萬ノ兵ヲ四千ノ軍艦ニ乗セテ入寇セシメ壹

弘安ノ役

北條時宗
元主忽必
烈

岐對嶋ヲ犯シ筑前博多ニ逼ル我兵奮戰シテ之ヲ防グ時
ニ大風起リ敵艦悉ク覆ヘル我兵勢ニ乘シテ之ヲ殲ス之
ヲ弘安ノ役ト云フ

〔三三〕 後醍醐天皇

紀元一千九百年代

護良親王 (鎌倉宮 相模國)
子正成 (湊川神社 攝津國)
新田義貞 (四條畷神社 河内國)
名和長年 (藤嶋神社 越前國)
(名和神社 伯耆國)

後醍醐天皇承久ノ事ヲ憤リ北條氏ヲ滅シテ王室ヲ中興
セントシ給ヘリ北條高時之ヲ聞キ兵ヲ發シテ西上セシ
ム天皇俄ニ笠置山(大和)ニ幸シテ楠正成ヲ召シ給ヘリ正

元弘ノ變
後醍醐天皇
北條高時

成詔ヲ奉シテ兵ヲ擧ゲ赤坂(河内)ニ城キシニ賊己ニ笠置
ヲ陷レ天皇ヲ京都ニ幽シ遂ニ隱岐ニ遷シ奉レリ之ヲ元
弘ノ變ト云フ

正成ハ赤坂城ニ據リテ賊兵ヲ破リ又金剛山(河内)ニ城キ
奇計ヲ設ケテ數賊ノ大兵ヲ破レリ

護良親王兵ヲ吉野(大和)ニ擧ゲ給フ賊兵之ヲ攻ム村上義
光親王ニ代リテ死シ親王ハ走リテ高野山ニ入り給ヘリ
新田義貞兵ヲ上野ニ擧ゲ直ニ鎌倉ヲ攻ム高時自殺シ北
條氏遂ニ亡ビタリ

天皇隱岐ヲ出テ、伯耆ニ幸シ給ヒシカハ名和長年義兵
ヲ起シ天皇ヲ奉シテ船上山ニ據レリ時ニ足利尊氏京都

建武中興

ニ在リテ歸順シ六波羅ヲ攻メテ之ヲ陷ル是ニ於テ天皇
京都ニ還幸シ給ヒ中興ノ大業成レリ之ヲ建武中興ト云
フ

護良親王、尊氏ノ異志アルヲ知り之ヲ誅セント請ヒ給ヒ
シカバ尊氏讒シテ親王ヲ鎌倉ニ幽シ後之ヲ弑シ奉レリ
尊氏征夷大將軍ノ職ヲ請ヒテ聽サレザリシカバ遂ニ鎌
倉ニ據リテ叛キ京都ヲ犯シ正成、義貞等ニ破ラレ九州ニ
走ル己ニシテ大兵ヲ率ヒテ東上ス義貞正成之ヲ兵庫ニ
擊チ正成ハ湊川ニ戰死シ天皇吉野ニ潛幸シ給ヘリ尊氏
京都ニ於テ更ニ天皇ヲ擁立ス是ヨリ吉野ヲ南朝ト稱シ
京都ヲ北朝ト稱シ天下兩分シテ戰爭常ニ絶ヘス南朝ニ

南北朝

ハ楠正行父ノ遺命ヲ守リ數兵ヲ出タシテ北軍ヲ破リシ
ガ遂ニ四條畷(河内)ニ戰死シ勢漸衰へ五十七年ヲ經テ南
北合一セリ

〔二四〕 足利義滿

紀元二千年代

足利尊氏征夷大將軍トナリ府ヲ京都ニ開キテ政權ヲ握
リシヨリ其孫義滿ニ至リ南北朝合一シ天下漸ク定マレ
リ
義滿交ヲ明國ニ結ヒ私ニ日本國王ノ稱ヲ受ケテ大ニ國
體ヲ損ゼリ
義滿奢ヲ極メ京都ノ北山ニ金閣ヲ造レリ

〔三五〕 足利義政

紀元二千一百年代

義政ハ足利八代將軍ナリ足利氏ハ義滿ヨリ奢侈ニ流レ
義政ニ至リ殊ニ甚シク能樂、茶、湯等ヲ好ミ東山ニ銀閣ヲ
造リ浪費多クシテ遂ニ銅錢ヲ明國ニ請求スルニ至レリ
義政初メ子ナキヲ以テ弟義視ヲ養ヒテ嗣トス己ニシテ
義尙ヲ生メリ時ニ細川勝元、山名宗全互ニ權ヲ争ヒ勝元
ハ義視ヲ立テントシ宗全ハ義尙ヲ援ケ遂ニ京都ニ戰フ
諸國ノ將士分レテ兩陣ニ屬シ十一年ノ間戰爭絶ヘス兩
將死スルニ及ヒテ戰漸ク止ム之ヲ應仁ノ亂ト云フ是ヨ
リ天下亂レテ足利氏ノ命令行ハレス

應仁ノ亂
東陣
細川勝之
足利義視
西陣
山名宗全
足利義尙

〔三六〕 織田信長 (建勳神社 山城國) 紀元二千二百年代

今川義元 信長尾張ニ起リ今川義元ヲ尾張國桶狹ニ破リテ之ヲ斬
リ大ニ威名ヲ顯ハセリ

正親町天皇

正親町天皇信長ニ勅シテ天下ヲ平定セシメ給ヘリ信長
入京シ皇居及伊勢神宮ヲ脩造シテ勤王ノ誠ヲ盡シ遂ニ
足利氏ニ代リテ天下ノ政令ヲ出タスニ至レリ

明智光秀

信長羽柴秀吉ヲシテ毛利氏ヲ征セシメ自將トシテ京都
本能寺ニ在リ明智光秀俄ニ叛キテ之ヲ襲フ信長竟ニ自
殺シテ薨ゼリ

〔三七〕 豊臣秀吉 (豊國神社 山城國) 紀元二千二百年代

山崎合戦

羽柴秀吉
明智光秀

聚樂第

朝鮮征伐

加藤清正
小西行長

秀吉ハ尾張ノ人ナリ初メ木下藤吉ト稱シ織田信長ノ奴
タリ功ヲ以テ部將トナリ姓名ヲ改メテ羽柴秀吉ト稱ス
秀吉、信長ノ命ヲ奉シテ毛利氏ヲ攻ム會光光叛キテ信長
ヲ弑ス秀吉毛利氏ト和シ直ニ東上シテ光秀ヲ山崎ニ討
テテ之ヲ滅シ遂ニ天下ヲ平定セリ
後陽成天皇秀吉ヲ關白ト爲シ豊臣ノ姓ヲ賜ヘリ秀吉京
都ニ聚樂第ヲ造リ天皇ノ臨幸ヲ乞ヒ諸大名ヲ會シテ皇
室ヲ尊ビ關白ノ令ニ違ハザランコトヲ誓ハシメタリ
秀吉武威ヲ海外ニ輝ガサント欲シ大舉シテ朝鮮ヲ伐ツ
加藤清正、小西行長、長鋒タリ進ミテ王城ヲ陷レ二王子ヲ
擒ニス明國大兵ヲ出タシテ朝鮮ヲ援ク我兵撃テテ之ヲ

破ル後、明ヨリ和ヲ請ヒシカバ、秀吉之ヲ許セリ。明韓ノ使者來リ、國書ヲ奉ル書中ニ「秀吉ヲ日本國王ト爲ス」ノ語アリ。秀吉大ニ怒リ、再征ノ師ヲ出タス。己ニシテ秀吉薨シ、遺命シテ諸軍ヲ返サシム。此役前後三年ニ亘レリ。

〔二八〕

德川家康

(東照宮 下野國)

紀元二千二百年代

家康ハ三河ノ人ナリ。初メ今川氏ニ屬シ、後織田氏ト和シ、信長ノ薨セシ時、其子信雄ヲ援ケテ、秀吉ト戦ヒシカ、遂ニ秀吉ニ從ヒ、功ヲ以テ關東八州ヲ領シ、江戸城ヲ築キテ之ニ居リ、威名甚盛ナリ。

秀吉薨シテ後、秀賴ノ臣石田三成等、家康ヲ忌ミテ之ヲ除

上杉景勝

關原ノ役

德川家康

豐臣秀賴
石田三成

大坂ノ役

德川家康
子 秀忠

豐臣秀賴
大野治長

カント欲シ、家康ノ上杉景勝ヲ伐ツニ當リ、俄ニ兵ヲ舉グ。家康軍ヲ返シテ、大ニ美濃、國關原ニ戦フ。西軍大敗シ、三成等殺サル。是ヨリ天下ノ政權、家康ニ歸シ、尋テ征夷大將軍トナレリ。

大野治長等、秀賴ニ勸メ、兵ヲ舉ケテ、德川氏ヲ討タシム。家康其子秀忠ト共ニ、大坂城ヲ攻ム。秀賴遂ニ和ヲ請ヘリ。己ニシテ和破レ、家康、秀忠復、大坂城ヲ圍ム。秀賴自殺シテ、豊臣氏亡ブ。

家康、英武ニシテ、善ク兵ヲ用井、又學ヲ好ミテ、大ニ文學ヲ起シ、遂ニ大平ノ基ヲ開キ、子孫相繼キテ、天下ノ政權ヲ握ル。ユト十五代ニ至レリ。

〔三九〕 德川家光 (三代將軍) 紀元二千三百年代

家光ハ秀忠ノ子ナリ勇ニシテ智アリ諸大名ヲ遇スルニ君臣ノ禮ヲ用井大ニ將軍ノ威權ヲ重クセリ耶蘇教ノ徒肥前國嶋原ニ據リテ亂ヲ作ス家光兵ヲ遣リテ之ヲ平定ス是ヨリ耶蘇教ヲ嚴禁シ外國ノ互市場ハ長崎ニ限リ支那和蘭ノ外ハ交通ヲ許サス

〔三〇〕 德川光國 (水戸義公) 紀元二千三百年代

光國ハ水戸ノ藩主ナリ賢ニシテ學ヲ好ミ大日本史ヲ撰ミテ君臣ノ大義ヲ明ニシ又楠正成ノ碑ヲ建テ其誠忠

嶋原ノ亂

耶蘇教

外交

大日本史

楠公碑

ヲ著ハシ天下ノ人ヲシテ天朝ノ尊ムヘキヲ知ラシメタリ

〔三一〕 德川綱吉 (五代將軍) 紀元二千三百年代

綱吉學ヲ好ミ學校ヲ江戸ニ建テ林信篤ヲ大學頭ト爲セリ是ヨリ文學益盛ニシテ學者多ク世ニ出デタリ晩年子ナキヲ憂ヒ僧徒ノ說ヲ信シテ殺生ヲ禁シ多ク犬ヲ養フ世人稱シテ犬公方ト云ヘリ

大學校

林信篤

大公方

〔三二〕 大石良雄 紀元二千三百年代

良雄ハ播磨國赤穂城主淺野長矩ノ臣ナリ其主幕府ノ命

淺野長矩

吉良義典

ヲ奉シテ勅使接待ノ事ヲ掌ルニ當リ私怨ヲ以テ吉良義典ヲ殿中ニ傷ケ死ヲ賜ヒ賊ヲ取メラル良羅主家ノ再興ヲ計ルモ事遂ニ成ラサルヲ以テ同志四十六人ト共ニ義典ヲ襲フテ故主ノ仇ヲ報シ自首シテ義ニ死セリ世人稱シテ赤穂義士ト云フ

三三 德川吉宗 (八代將軍) 紀元二千四百年代

大岡忠相

吉宗ハ賢明ニシテ百技ニ通ゼリ大岡忠相(越前守)ヲ用ヒテ政ヲ正クシ又諸國ニ令シテ地ヲ開キ河ヲ通シ甘蔗甘藷ヲ裁エシメテ人民ノ休養ヲ謀レリ故ニ天下大ニ治マリ世ニ德川中興ノ主ト稱セリ

德川中興ノ主

三四 外艦渡來 紀元二千五百年代

孝明天皇

孝明天皇ノ時亞米利加合衆國ノ軍艦相模國浦賀ニ來リテ通商ヲ請フ尋テ西洋諸國ノ使者モ亦來レリ是ヨリ攘夷開港ニ黨相争ヒ國內騷然タリ

井伊直弼

大老井伊直弼私ニ諸外國ト條約ヲ結ビ且ツ多クノ志士ヲ刑ニ處セシヲ以テ遂ニ水戸ノ浪士ノ爲ニ途上ニ殺サレタリ

生麥事件 嶋津久光 英國

嶋津久光英人ノ無禮ヲ怒リ之ヲ斬ル英人軍艦ヲ率ヒテ薩摩ヲ攻ム久光和ヲ講シテ事遂ニ平ラケリ之ヲ生麥事件ト云フ 毛利慶親外艦ヲ下關ニ砲撃ス諸外國聯合シテ長門ヲ攻

下關事件
毛利慶親
諸外國
外交

△幕付償金ヲ出タシテ事平ラク之ヲ下關事件ト云フ
其後天皇勅シテ諸外國ニ交通貿易ヲ許シ給ヒ外交盛ニ
開ケタリ

〔三五〕 王政復古

明治元年

德川慶喜

德川十五代將軍慶喜時勢ヲ察シ政權ヲ朝廷ニ還シ奉ラ
ント請フ今上天皇之ヲ許シ給ヒテ王政復古ヲ布告シ給
ヘリ是ヨリ天皇政ヲ親ラシ給ヒ天下大ニ治マレリ

〔三六〕 朝敵征伐

明治元年
全二年

慶喜新政ヲ喜バス兵ヲ率ヒテ入京セントス官軍之ヲ伏

伏見鳥羽
ノ戦
德川慶喜

見、鳥羽(山城)ニ破ル慶喜江戸ニ還リ恭順ノ意ヲ表ス官軍
江戸城ヲ取メ慶喜ノ罪ヲ宥メテ事平ゲリ

函館ノ役
榎本武揚
奥羽戦争
松平容保

德川氏ノ舊臣榎本武揚海軍ヲ帥ヒテ函館(北海道)ニ走リ
會津(岩代)城主松平容保等城ニ據リテ叛ク官軍攻メテ之
ヲ陷レ國內全ク平ゲリ

〔三七〕 臺灣征伐

明治七年

西郷從道

臺灣ノ土人我國ノ漂民ヲ殘害セシニ清國之ヲ顧サルニ
ヨリ天皇西郷從道ヲシテ之ヲ征セシメ給フ土人力盡キ
テ皆降レリ

大久保利通

己ニシテ清國俄ニ異議ヲ唱フ天皇大久保利通ヲ遣リ給

ヒ竟ニ清國ヨリ償金ヲ出サシメテ事平ゲリ

〔三八〕 慶島征討

明治十年

西郷隆盛

西郷隆盛ハ薩摩ノ人ナリ維新ノ際大功アリ陸軍大將兼
参議ニ任セラル曾テ朝鮮國ノ無禮ヲ憤リ之ヲ征セント
欲ス議行ハレズ官ヲ辭シテ鹿兒嶋ニ歸リ私學校ヲ建テ
子弟ヲ教育セリ

熊本城

谷干城
熾仁親王

隆盛妄リニ政府ノ非ヲ鳴ラシ兵ヲ舉ケテ熊本城(肥後)ヲ
圍ム司令長官谷干城固ク守リテ善ク防ケリ天皇熾仁親
王ヲ征討總督トシテ賊徒ヲ征討セシメ給フ八ヶ月ヲ經
テ隆盛遂ニ鹿兒嶋ノ城山ニ戰死セリ是ヨリ不平ノ徒跡

ヲ取メ天下愈治レリ

〔三九〕 朝鮮ノ變

明治十五年
全十七年

花房義實

朝鮮國ノ兵士亂ヲ作シテ王宮ヲ犯シ竟ニ我國ノ士官ヲ
殺シ公使館ヲ襲ヘリ公使花房義實朝旨ヲ奉シテ國王ニ
迫リ償金ヲ出サシメ別ニ大臣ヲシテ來リテ其罪ヲ謝セ
シメタリ

竹添進一郎

後復内亂アリ國王授テ我公使館ニ請フ公使竹添進一郎
兵ヲ率ヒテ王宮ヲ護ル清兵後レテ至リ我兵ヲ砲撃シ互
ニ殺傷アリ朝廷使ヲ朝鮮及清國ニ遣リ給ヒ事漸ク解ケ
タリ

〔四〇〕 憲法制定

明治二十二年

明治ノ政治

維新ノ後朝庭百般ノ制度ヲ改メ藩ヲ廢シテ府縣トナシ
兵制ヲ定メ學校ヲ興シ給ヒ善政悉ク行ハレ國民ノ知識
産業次第ニ進メリ
後憲法ヲ制定シテ帝國議會ヲ開カセ給フニ及ヒ國光益
世界ニ輝ケリ

帝國議會

年代一覽

一千八百年代

源氏三代ニシテ子孫絶ヘ北條氏幼主ヲ
迎ヘ立テ、政權ヲ握ル
後鳥羽上皇北條氏ヲ滅サントシ給ヒテ
承久ノ亂アリ是ヨリ武臣益專横ヲ極ム

一千九百年代

北條時宗蒙古ノ兵ヲ攘ヒテ國威ヲ輝カ
セリ
後醍醐天皇北條氏ヲ滅シテ王室ヲ中興
シ給ヘリ
足利尊氏叛キシヨリ天下兩分シテ南北
朝トル

二千年代

楠正行戰死シテ南朝漸ク衰へ遂ニ神器
 ナ北帝ニ授ケ給ヒテ南北合一セリ
 足利義滿明ノ封ヲ受ケテ國体ヲ損セリ
 足利義政奢ヲ極メ費用足ラスシテ銅錢
 ナ明ニ求ム
 細川氏山名氏互ニ權ヲ爭フテ應仁ノ亂
 アリ是ヨリ天下亂レテ戰國トナリ足利
 氏ノ號令行ハレス

二千一百年代

英雄四方ニ起リ川中嶋、桶狭等ノ戰アリ
 織田信長遂ニ足利氏ニ代リテ政權ヲ握
 レリ
 信長薨シテ豊臣秀吉之ニ代リ天下ヲ平
 定ス

二百二百年代

秀吉朝鮮ヲ征伐シテ武威ヲ海外ニ輝カ
 セリ
 豊臣氏徳川家康ヲ除カント欲シテ關原
 ノ戰アリ是ヨリ天下ノ大權徳川氏ニ歸
 シ大坂二度ノ役アリテ豊臣氏遂ニ亡ブ
 徳川家光嶋原ノ亂ニ懲リテ外交ヲ禁シ
 僅ニ支那、和蘭ノ長崎ニ來ルヲ許セリ

二千三百年代

徳川綱吉ハ學校ヲ興シテ文教ヲ盛ニセ
 リ
 赤穂義士復仇ノ舉アリ

二千四百年代

徳川吉宗ノ時天下大ニ治マリ徳川中興
 ノ主ト稱ス
 西洋ノ學術漸ク傳ハリ天文、醫術等明カニ

ナレリ
林子平、高山正之等ノ志士世ニ出テ勤王ノ説、海防ノ論ヲ唱ヘリ

米艦來リテ交通ヲ請ヒシヨリ國內騷カシク井伊直弼ハ外交ヲ約シテ途ニ殺サレ志士四方ニ起リテ幕府ノ朝命ヲ奉セザルヲ責メ遂ニ徳川氏ヲシテ政權ヲ奉還セシムルニ至レリ

明治元年王政古ニ復リ内ハ制度ヲ改メ外ハ交通ヲ開キ國運日ニ隆盛ニ赴キシガ二十二年ニハ憲法ヲ制定セラレニ十三年ニハ帝國議會ヲ開カセ給ヒ立憲帝國ノ光ハ旭日旗ト共ニ萬國ニ輝ゲリ

二千五百年代

明治二十七年二月廿六日印刷
明治二十七年三月四日出版

非賣品

編纂人

岩崎申吉

兵庫縣赤穂郡赤穂町之内加里屋町
四百三十七番屋敷

發行者

豐岡與一

兵庫縣赤穂郡赤穂町之内加里屋町
百七十七番屋敷

印刷人

岡本龜太郎

兵庫縣赤穂郡赤穂町之内加里屋町
七十壹番屋敷

